

第8期八頭町介護保険事業計画・高齢者福祉計画(案)

パブリックコメント(意見公募)の実施結果について

- 意見募集期間 : 令和3年1月14日(木)~2月12日(金)
- 提出意見 : 3件(3個人)

■提出のあった意見等及び対応

	意見等	対応
1	<p>市町村の介護保険事業計画は国の基本方針を受けて検討し作成されるものと聞いている。</p> <p>8ページ「高齢者等の人口と推計(65歳以上)」と「要支援・要介護認定者数の推計」の表によると、2040年の第1号被保険者(65歳以上)の人口は約1,000人減少するものの、要支援1~要介護5の認定者数は約1,200人を推移する推計になっている。</p> <p>また、総人口は約4,000人減少し高齢化率の増加が顕著で高齢者単身世帯の増加が懸念され、それに伴う介護不安が増加し、施設入所希望者が絶えないのではないかと懸念されている。</p> <p>22ページ「(10)高齢者の住まいの確保」に「○要介護高齢者の状態に応じた施設・居住系の介護サービスの充実を図ります」とあるのは、どのような内容を想定しているのか。施設入所待ちの高齢者にはどのような施策をお考えか。</p> <p>施設入所し個人の能力に応じて自立した生活を送る高齢者と、施設入所できず在宅で不自由な生活を送る高齢者、家族の生活の質の差を埋める施策はお考えか。</p>	<p>今後は高齢化率がさらに上昇し、認知症高齢者や一人暮らしの高齢者の増加も予想され、2040年を展望した社会保障の新たな局面を迎える中、給付費の増大に対応した制度の長期的な維持、安定を図ることが国を挙げての課題となっており本町も例外ではありません。</p> <p>そのような中、高齢化の進行や家族の介護負担の増大を背景に、在宅サービスと併せ、様々なニーズに対応できるよう多様な形態の施設整備を進めてきたところです。</p> <p>一定数の入所待機者がいらっしゃることは承知しておりますが、人口減少に伴い第1号被保険者数が減少し、認定者数は横ばい傾向での推計となっていること、入所定員に対して多少余裕のある施設もあること、また、ショートステイや小規模多機能型居宅介護施設の泊り等を利用するといった多様なサービスを調整できている等の現状を踏まえ、第8期計画では既存施設の活用によるサービス量を見込んでおります。</p> <p>また、在宅、施設を問わず、いかなる場所においても可能な</p>

	意見等	対応
	<p>2040年の推計状況や現状の生活格差を考えると、住み慣れた地域で入所できる少人数施設がもう少し必要なように感じる。</p>	<p>限り個人の能力に応じて自立した生活が送れるよう、適切なケアマネジメントにより真に必要とするサービスを見極めたうえで、適切に介護サービスが提供されるよう、介護給付の適正化に取り組む、健全な介護保険制度運営に努めてまいります。</p>
2	<p>【地域密着型施設の増床を要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町に、介護が必要な高齢者(以下「介護高齢者」とする。)が入居できるキャパシティーに余裕度がある施設の支援を強く要請する。 ・まだ受け入れできる体制が整備された、される予定の施設があるように聞き及んでいる。これを無下にはできない。 ・入居希望者がたくさんいる。そこを看過するのは町の福祉事業の信頼を損ねることになりはしないか。 ・このことが、<u>人が輝き、みんなで支えあい 誰もが自分らしくいきいきと幸せに暮らせる地域社会をめざし、本人も家族も、そして地域も安心して暮らせるまちづくりになると信じてやまない。</u> <p>【要望の理由等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居待ちの介護高齢者が増加傾向にある。入居施設を増加するのが対応策の基本で、介護費用増加の懸念があれば何らかの方策を考える。 ・入居先が見つからない事態の延長は、家族にとって想定外の精神的、肉体的なストレスと負担を強いられる。 ・入居先が見つからない家族の負担は、会社勤めができないばかりか、自身の神経・身体崩壊により医療費の支払いが生じ、町の福祉行政に影響を及ぼすこととなる。 	<p>入所待機者がいらっしゃることは承知しておりますが、適切なケアマネジメントにより様々なサービスを利用させていただく中で、入所に急を要するケースについては、地域包括支援センターや介護支援専門員等へ相談が入り、医療・介護の関係機関と連携しながらサービス調整できていると判断しております。</p> <p>施設形態には広域型と地域密着型がありますが、全国的に有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅が増加しており、町内はもとより東部圏域においても整備が進んでいる状況です。</p> <p>施設整備につきましては、第7期までの流れ、さらには第8期における施策展開や介護給付費の状況等をみながら、今後ニーズ調査等を行う中で東部圏域における広域施設の整備やサービス提供状況を踏まえつつ、検討していくこととします。</p> <p>人口構造、第1号被保険者数や認定者数、認知症高齢者や高齢者世帯の増加等、高齢者を取り巻く環境が変化する中で、介護需要や動向も変化していくことが想定され、それに対し、「施設頼み」を続けるだけでは高齢者や介護を担う家族を支えていくことは難しく、予防、医療、介護、地域での支援等一体的に提供していく地域包括ケアシステムの強化が求められています。</p>

	意見等	対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居待機時の自宅での医療受診体制が不備であり、必要以上の医療費増大に繋がり、町負担の医療費を圧迫することになる。 ・在宅介護の負担は 24 時間であり休めない。施設は入所待機者増の現状である。 ・施設入所できたことで家族負担が減り、入所した介護高齢者も状態が安定した。施設には感謝と敬意を表す。 ・町の目指すところは何なのか。 ・高齢者、認定者等の推計では増加することを推定している。この割合をどう見るか。どのように対応していくのか。 ・何れにしても、介護を必要とする高齢者が増加することは間違いない。 ・本計画書は美辞麗句で書き表すのではなく、実効性の伴うものにしていただきたい。 	<p>そこで、第 8 期においては、国の方針に基づき重点施策として「健康づくりと介護予防の推進による健康寿命の延伸」を掲げ、既存施設を有効活用していくとともに、地域や住民が主体となる取り組みの強化と地域全体で元気なうちから健康増進や介護予防を奨励し、支援が必要になっても重度化防止・自立支援に繋がる事業を活用した取り組みを推進していきます。</p>
3	<p>地域密着型特定施設入居者生活介護施設「ぬくもり」に入所している者の家族としてパブリックコメントする。</p> <p>自宅で在宅サービスを利用しながら老老介護の状態であったが、在宅介護が困難になり、施設入所することになった。この施設に入所できて本当によかったと思っている。</p> <p>地域密着型特定施設入居者生活介護施設は定員 29 人以下の小規模有料老人ホームだが、現状は 20 人の整備である。新たな施設整備(定員 29 人以下)ではなく、既存の施設を 9 床増床するだけで 9 人の受入れが可能となる。第 8 期計画に増床の計</p>	<p>施設形態については、広域型・地域密着型、大規模・小規模、サービス提供内容等に違いがあり、本町においても様々なニーズに対応できるよう多様な形態の施設整備を進めてまいりました。</p> <p>今後の施設整備につきましては、第 7 期までの流れ、さらには第 8 期における施策展開や介護給付費の状況等をみながら、東部圏域における広域施設の整備やサービス提供状況を踏まえつつ、必要とする施設形態等も含め検討していくこととします。</p>

	意見等	対応
	<p>画がないことは残念であり、私たちのように施設を探している家族はたくさんある。</p> <p>一人暮らしの高齢者や高齢者世帯が総世帯の20%超を占めており、今後も増加していき高齢者を取り巻く環境は深刻化していくと思う。在宅サービスにも限界があり、高齢者の暮らしの場としての施設を少しずつ増やしてほしい。</p> <p>今一度八頭町の基本理念「みんなで支えあい 誰もが自分らしくいきいきと幸せに暮らせる 地域社会を目指す」に基づき検討願う。</p>	<p>近年は、要介護状態になる時期を少しでも遅らせるよう介護予防が国の重点施策となっており、引き続き、健康づくり・介護予防活動の奨励や地域で高齢者を支える仕組みづくりを進めてまいります。</p>